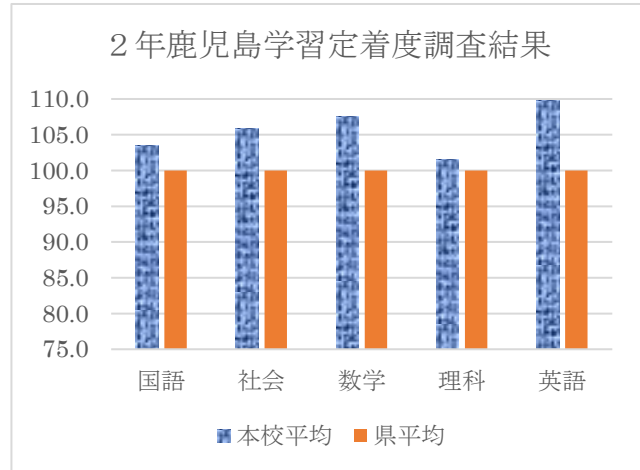
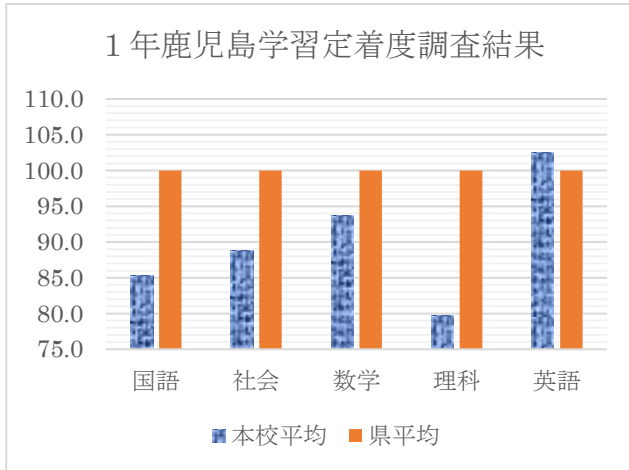


令和5年度 鹿児島学習定着度調査(令和6年1月実施)結果

鹿児島市立郡山中学校

1月に実施された「鹿児島学習定着度調査」の結果をお知らせいたします。本調査は、児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能や思考力等に関する学力状況のほか、学習に関する意識や学び方等の学習状況、学校の学力向上の取組等を把握することを目的としたもので、県下の全ての公立小・中学校等で毎年実施されています。

1 調査結果(県平均を100としています。)



2 結果の概要

ア 全体の概要

第1学年の英語、第2学年の全教科で県平均を上回りました。特に2年生は昨年度に引き続き、今年度も全教科で県平均を上回っており、この1年間で学力が着実に定着していることが分かりました。

全体として、10教科中、6教科で県平均を上回り(R3年度2教科→R4年度7教科)、この3年間取り組んできた学力向上対策が着実に実を結んでいると考えています。

イ 各教科の課題と今後の対策

	1年 □:課題 ○対策	2年 □:課題 ○対策
国語	<ul style="list-style-type: none"> □ 「漢字の部首名」 漢字の意味やつくりを意識しながら覚えていない。 □ 「書くこと」 「引用しての作文」「インタビューをもとにした作文」の通過率が低い。 ○ 「書く」活動を行う際、特に、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫する力をつける。そのため、「本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動」「行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動」に取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「行書の特徴」 行書の特徴について、知識が定着していない。 □ 「書くこと」 「文章の構成」の通過率が低い。 ○ 書写の時間に、楷書や行書などそれぞれの書体の特徴に注目させ、文字を書く際に特徴を意識しながら書くように取り組ませる。 ○ 「伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫する力をつける。そのため、社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動」に取り組みさせる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> □ 「地理」《ヨーロッパの農業》 ヨーロッパにおける転作による農業を行う穀物生産のことを理解できているか、確認する問題であったが、地中海性農業との混合がみられ、混合農業を答えることができなかった。 □ 「歴史」《正倉院》 奈良時代の宝物庫、正倉院と校倉造りの倉庫や唐招提寺との区別ができておらず誤答している。問題から導き出すことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「歴史」《天保の改革》 改革の責任者水野忠邦の絵や一揆・打ち壊しの年表から添付の改革を読み取ることができなかった。 □ 「歴史」《江戸の文化》 元禄の絵画や、化政の版画・浮き世への資料から文化的な特徴をとらえることができなかった。 ○ 小テストや実力テスト対策問題などを利用して、知識・技能の定着を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小テストや基礎学習プリントを実施し用語の定義をはっきりさせ、理解を深める。 ○ 単元テストの該当する箇所をチャレンジテストや実力テストに出題し、復習の機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT教材を利用して美術作品と文化的な結び付きをより多く学ぶことを復習する。 ○ 学びポケットによる復習をより進める。
数学	<ul style="list-style-type: none"> □ 「図形」 台形の意味や性質について理解していない。(小4) □ 「データの活用」 問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきか判断することができていない。(小6) □ 「データの活用」 与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができていない。(小6) ○ 知識・技能は7割、思考・判断・表現は6割の通過率である。既習事項の確認プリントやワーク、web問題を活用し、計算や記述問題を多く取り扱っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「角の二等分線の作図」 中1の1学期に学習して、夏以降基本的な作図の方法については学習してきた。作図はできても、原理や区別がついていない。 □ 「式の証明」 式を計算するところまではできているが、$6n+6=6(n+1)$の式変形の必要性を理解できていない。 □ 「グラフと表から座標を求める」 座標の読み取りはできているが、正確な数字を表から得られることに気付けない生徒が多い。 ○ 全体的に基礎・基本は定着しつつあるが、思考・判断・表現を必要とする問題の通過率が低い。授業の最後に鹿児島学習定着度調査や全国学調などの問題や入試問題などを活用して活用する問題に取り組んでいく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> □ 「マッチの火を近づけると、空気中でポンと燃える気体」 1学期に水素については演示実験によって学習した。発生方法を理解していない。 □ 「物体を凸レンズに近づけていったときの実像の範囲」 2学期にグループ実験で時間をかけて行い、学習した。結果表に各自記入しているがあまり理解できていない。 □ 「れき、砂、泥を容器中の水に入れて振ったときのようす」 小学校6年生のときに学習している。粒の大きいものが速く沈むことを理解できていない。 ○ 単元を進める中で、過去の問題をさせたり、実力試験に小学校の範囲の問題を出題したりしている。来年度は、冬休み課題等で復習していく。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「火山の形」 原理についての理解が乏しい。 □ 「水の凝結」 表の読み取りが不十分。凝結する理由を説明できていない。視認が困難な事象をイメージできていない。 □ 「フックの法則」 他の小問は解けているので、特に語句を忘れている。分野ごとに語句をまとめてインプットしなければならない。 ○ 思考・判断・表現の部分の透過率が低い。授業内や演習で、もっと自ら考えて仮説を立てたりする機会を増やす。
英語	<ul style="list-style-type: none"> □ 「対話の流れから判断し、適切な語を補う問題(47.2%)」 さまざまな種類の質問の活動を増やしたことでYes/No Questionの質問を少なくしたため。話すこと □ 「be 動詞の否定文を正しい語順で答えることができるかを問う問題(47.2%)」 基本的な文法の復習が不足していたため。疑問文を書いている生徒が多かった。書くこと。書くこと □ 「メッセージの内容を捉え、自分の考えを適切に示すことができるかを問う問題(49.1%)」 短い文章を黙読し、自分で読み取らせ、自分の考えを述べる活動が少なかったため。帯学習にWhich seasonの問題を取り入れる。読むこと ○ 基本的な文法の復習を取り入れ、短い英文を自分の力で素早く読み、自分の考えを表現する活動を多く取り入れる。 ○ 対話の活動が不足しているため、さらに増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「情報に基づいて人称代名詞の所有格を用いて正確に書く問題(34.9%)」 人称代名詞表を正確に覚えられていないため、My name is ~はできるが、His name is ~と紹介する文が書けなかった。代名詞の用法を復習する必要がある。 □ 「対話の流れや文法事項を正しく理解し、適切な語を用いて書く問題(44.2%)(②53.5%)」 対話の流れを理解することはできたが、時制のミスや、疑問文の語順で正確に書くことができなかった生徒が多かった。ALTやJTE、友達同士での対話活動を重点的にを行い、speakingからwritingへとつなぐ活動を継続したい。 □ 「英文の内容を把握し、空所に適切な英文を選択する問題(60.5%)」 文章の概要を捉えることはできていたが、正確な情報を読み取ることができていなかった。reading教材で空所補充(語句・文)の問題に取り組ませたい。 ○ 授業開始時の帯活動で、speakingとwritingの活動を重点的に入れる。 ○ Reading活動では空所補充問題をALTに協力をもらいながら作成する。

